

# 高知港海岸漂着ごみ組成調査

R4年度調査結果

## 1. 調査概要

### 【目的】

- 高知港海岸において、継続的に海岸漂着物の組成や存在量を把握し、さらに、それらの経年変化を把握することで漂着ごみ等の発生抑制対策の検討や県民への啓発に活用する。

### 【調査方法】

- 調査は環境省「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン」に基づき調査を実施する。

### 【調査対象地点】(図1-1)

- 調査は高知市浦戸の桂浜(東浜)で実施した。

### 【調査日】

- 令和5年2月3日に実施した。



図1-1 調査地点 1 km

## 2. 調査結果(令和4年度の漂着物の分類結果及び過年度との比較)

### 【2分類(自然物と人工物)での比較】(図2-1、図2-2)

- 今年度の漂着物の個数、容積及び重量は令和2年度と比較すると大きく減少し、令和3年度と比較すると自然物の容積を除いて増加した。その要因として、令和4年度は台風等による出水が少なかったことのほか、令和2年度には桂浜での清掃活動がコロナ禍の影響で行われなかったのに対し、令和3年度には調査1か月前の12月末、令和4年度は10~11月に2回行われたためと考えられる。
- 今年度の容積と重量は過年度と同様に自然物が多かったが、個数については人工物が多かった。これは自然物の灌木や人工物の破片(プラスチックや金属、ガラスなど)が、個数の計測対象外であるためである。
- 調査を行った3か年の個数、容積及び重量の割合を比べると(図2-2)、どの年も個数では人工物が高比率であった。一方、容積と重量については自然物の割合が高く、2分類別の組成に大きな変化はみられなかった。

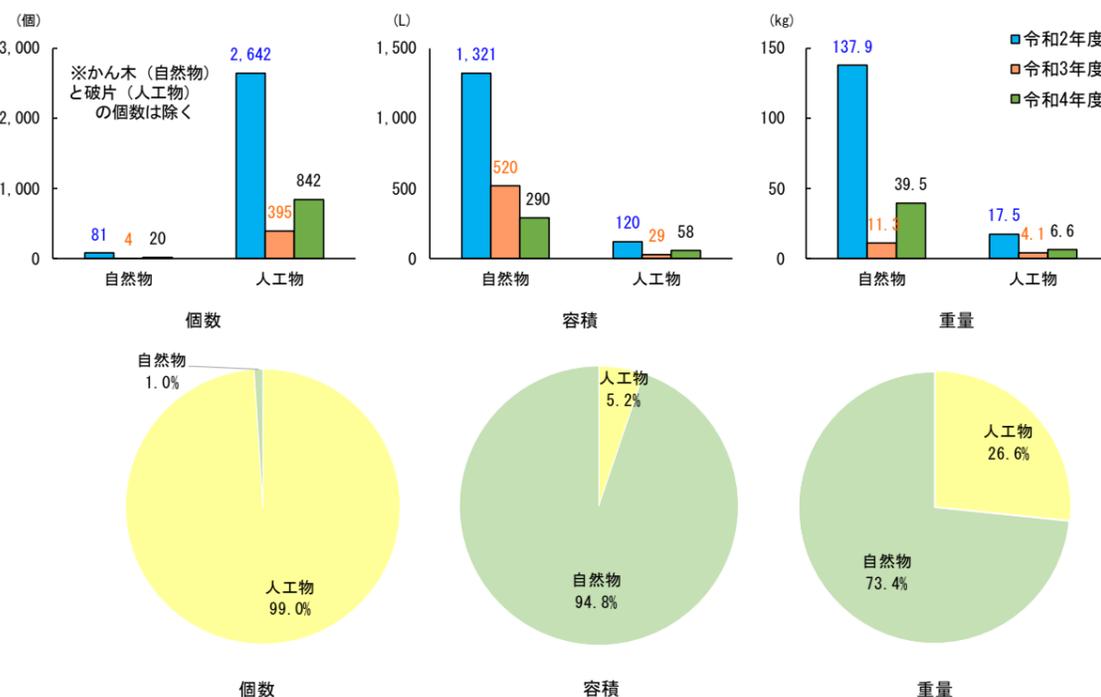


図2-1 各年の自然物と人工物の個数、容積及び重量

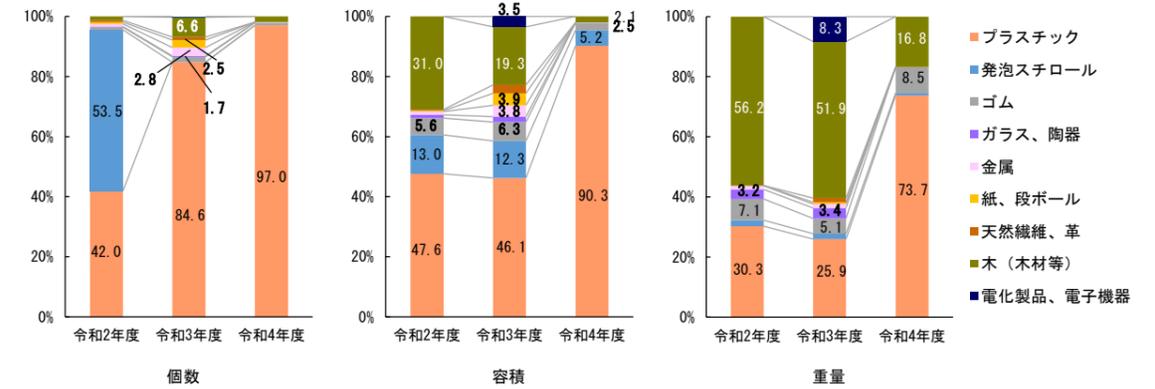
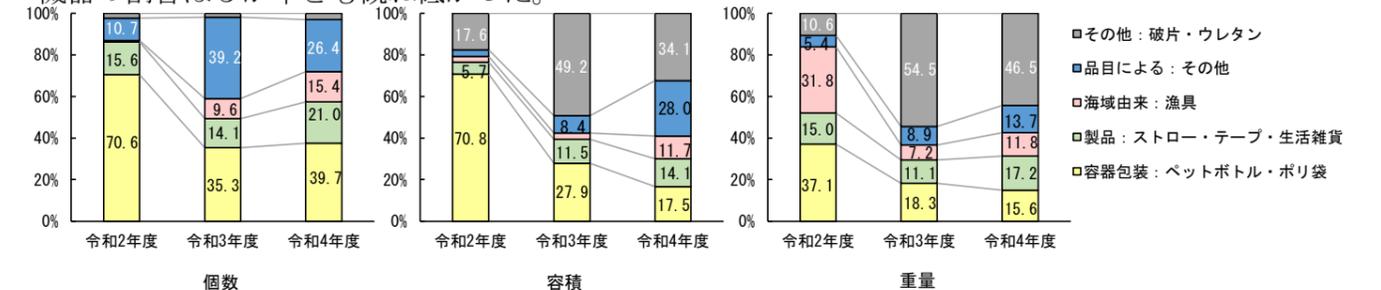


図2-2 各年の自然物と人工物の割合

### 【人工物の大分類別の組成】(図2-3)

- 人工物の組成は年によって異なるものの、3か年とも個数、容積及び重量でプラスチックの割合が高かった。また、容積及び重量では木(木材等)の割合が高かった。
- 個数、容積、重量のいずれも、ガラス・陶器、金属、紙・段ボール、天然繊維・革、電化製品・電子機器の割合は3か年とも概ね低かった。

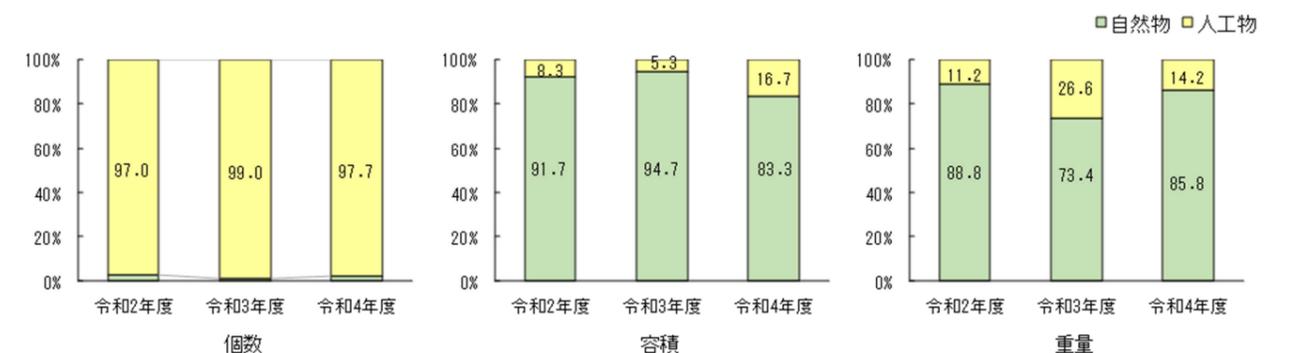


※破片の個数は除く

図2-3 各年の人工物の大分類別の組成

### 【プラスチックと発泡スチロールの分類】(図2-4)

- 回収したプラスチックと発泡スチロールを容器包装、製品、海域由来、品目による、その他の5項目に分類し、3か年の傾向をみると、年によって組成比は異なるものの、個数では容器包装が多く、容積と重量ではプラスチックや発泡スチロールの破片が多い状況が窺える。



※破片の個数は除く

図2-4 各年のプラスチックと発泡スチロールの分類